

陸前高田市横田地区民生児童委員協議会

(平成 26 年 10 月)

1 はじめに

陸前高田市は、岩手県の沿岸南部に位置する宮城県境のまちですが、東日本大震災では死者・行方不明者 1,814 名と県内で最も多くの人的被害を受けました。

横田地区は、市の中心部から見て北西の山間部に位置し、470 世帯を民生委員・児童委員 8 名（うち主任児童委員 2 名）で担当しています。

震災では、直接的な物損被害はありませんでしたが、外出先や職場で津波に遭い、一家の大黒柱である夫や最愛の妻、子どもなど、大切な家族を失った人たちもいました。

2 現状紹介

(1) 震災時の様子と現状

発災から間もない時期は、炊き出しなど避難所運営支援に奔走しました。

徐々に電気・電話などが復旧し、応急仮設住宅が建設され、物流が動き出してからは、復旧・復興が加速すると考えていましたが、地価の高騰で、災害公営住宅の建設や高台移転などの用地取得に時間を要し、思うように復興が進まない状況にあります。

(2) 被災者の状況

応急仮設住宅では、さまざまなボランティアが支援活動を行っていますが、津波による流失を免れ、自宅で生活する家庭までは支援が届いていないようです。

震災で親を亡くした児童へのカウンセリングが行なわれていますが、いまだ心の傷が癒されず、主任児童委員も心配しています。

一方で、自宅を再建し、応急仮設住宅から転出する住民が出てきていることを喜ばしく感じます。また、市内で最初の災害公営住宅が平成 26 年 10 月に完成予定で、住宅の再建・整備が進むとともに、徐々に応急仮設住宅がなくなること、特に小学校や中学校の校庭の応急仮設住宅が早期になくなることを切に願っています。

(3) 委員活動

毎月 2 回、社協と共催で、応急仮設住宅団地の集会所を会場に「お茶っこ飲み会」を開催していますが、参加者が固定化したり、団地ごとに参加率が異なるといった状況にあります。

「お茶っこ飲み会」には、委員も参加し、住民と会話を行っていますが、世間話は快活に行なわれるものの、なかなか心の悩みを打ち明けてもらうまでには至らない状況です。

3 おわりに

全国の民生委員・児童委員の皆様をはじめ、多くのボランティアの皆様からご支援をいただき、厚く感謝申し上げます。

震災から 3 年半が経ち、住民それぞれ生活再建の進み具合には差が生じていますが、今後、新たなまちづくり、生活環境整備が進み、その中で新たなコミュニティが形成され、安心して暮らせる地域となることを願ってやみません。

住民の心の悩み、地域の悩みを傾聴し、見守ることが民生委員・児童委員の役割の基本であり、他者の悩みを受け止められるようにするためにも、民生委員自身が心の負担を抱えることなく、今後とも地域全体の動向を見ながら活動していきたいと思えます。